

たけた

市議会だより

2012. 9. 1

特集号

市民との意見交換会



▲竹田西部地域(松本分館)



▲竹田北部地域(双城中学校跡)



▲荻地域(荻公民館)

開かれた議会をめざして

まずもって先の大水害で犠牲となられた方のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。さて、議会改革の一環としてかねてから懸案となっておりました「市民との意見交換会」を、去る4月21日、25日、28日の3日間、市内7会場で開催いたしましたところ、ご多忙の中、全体で139人の市民の皆様にご参加をいただきました。改めて厚くお礼を申し上げます。

各会場では、まず議員から「議会の概要と役割」「平成24年度当初予算の概要」「議会改革の取組状況」についてご説明申し上げた後、意見交換会に入りました。

参加者からは、中長期的視点に立った建設的なものから、身近で切実な問題まで、様々なご提案やご要望などをお聞きすることができました。

これらの一部は、早速6月定例会の一般質問や議案審査などにおいて、有効に活用させていただいたところで。

また、会場で実施したアンケート調査では、93人の方からご回答をいただきましたが、その中で「今後、議会が開催する意見交換会等に参加したいと思いますか」との質問に対し、実に93.5%の方から「参加したい」とのお答えをいただいたところであり、この数字は私どもとしても重く受け止めなければならぬと考えております。

議会として初めての取組であり、運営に不十分な点もあったかと思いますが、市民の皆様のご貴重なご意見を市政により反映させていくことが議員の役割であることを肝に銘じ、引き続き議会活動に積極的に取り組んでまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

議会改革調査特別委員長 伊藤 孝信

竹田東部(岡本・明治・豊岡・竹田)地域

平成24年4月21日(土) 午後7時～ 参加人数 8人

参加議員

森 哲秀
(班 長)

阿部 雅彦



岩屋 千利



中村 憲史



後藤 憲幸



加藤 正義



竹田分館

意見・質問等	意見・質問等への対応(担当部署の回答がある場合は、「」で囲んでいます)
市道城原線の改良工事が始まって今年で10年になる。計画区間は旧明治小学校までとなっていたが、未だ完成していない。今後の予定を知りたい。また、早期に城原小学校まで改良してほしい。	市道城原線の改良工事は平成17年から行われています。地元期成会の活動等により、毎年改良工事が進められていますが、工事困難箇所等もあるため、思うように進んでいないようです。工事の進捗状況、及び今後の進め方について執行部に照会した結果、担当部署から次のとおり回答がありました。 「市道城原線は、現在の改良箇所までが当初の計画(平成26年度まで)となっています。現在の計画箇所に引き続き、旧明治小学校までの改良について検討を行い、公共施設整備計画に計上を検討中です。城原小学校までの区間は、現在舗装補修工事を実施しており、平成26年度で完了予定です。この区間の改良計画の予定はありません」 議会として、公共交通の安全性及び利便性の向上を図るよう努力してまいります。
明治地区に、『殉空の碑』がある。その碑に至る200メートルの道路を舗装してほしい。生コンを支給してもらえれば、地元で施工したい。	農道補修等で生コンを現物支給する制度がありますので、その制度を利用して地元で施工していただきたいと思います。
地域の道路関係の予算が当初の額よりも減額された感があった。議員同士で予算の取り合いがあるのでは。	工事の実施段階で予算の調整をすることはありますが、議員同士で予算を取り合うようなことはありません。
市道城原線に関連することだが、取り付け(入口)の改良と橋の架け替えをお願いします。	執行部に照会した結果、担当部署から次のとおり回答がありました。 「県道竹田直入線から市道城原線への入口付近については、以前改良工事を行っており、現時点では再度の改良は考えておりません。鬼田橋の架け替えについての予定はありませんが、現在、橋りょう長寿命化計画を策定しており、その計画に従って計画的な橋りょう修繕を行ってまいります」 議会として、橋りょう長寿命化計画を後押しするよう努力してまいります。
合併特例債は来年で終了すると聞いているが、それは借金か交付金か。また、10億円の交付金があると聞いているが、その使い道は。	合併特例債は、合併後の10年間(平成27年まで)に限り起債(借金)ができる制度で、その償還金(返済額)の70%が後に国から交付税として市に支払われます。臨時交付金は当該年度の収入で、要望に応じて執行部が議会に用途を提案し、議決を得て執行されています。なお、国の政策として合併特例債の期間は、5年間(平成32年まで)延長されました。
介護保険料はどのようにして決定するのか。	介護保険料は、3年ごとに掛け金の見直しが行われています。今回の改訂では105億円の事業費が必要と見込まれています。65歳以上の被保険者が21%(月額5,500円、3年間)、40歳以上65歳未満の被保険者が29%、国、県、市が合わせて50%の負担割合となります。
城下町400年祭の総予算は。議会は市長から提案された予算案を否決したことがない。市民の思いを反映させてほしい。	城下町400年祭の予算額は、2,976万円です。提案された予算案については、議会で十分に論議し、チェックしたうえで議決していきます。

豊岡小学校の敷地の真ん中に里道があるが、教育委員会から、今年4月以降は通行止めにするとの通知があった。子どもたちの安全を守ることは大切なことであるが、道路の位置を変更してでも、通行できるようにしてほしい。	教育委員会で調査した結果、里道でもなく、校庭の真ん中を車両が通行することは児童の安全を確保する上で厳しいことから、今年4月に自治会と協議し、午前7時から午後5時までの時間帯を通行止めにする事となりました。なお、6月には、豊岡地区全体に周知文書を配布しました。
竹田高校の体育館建設工事終了後、付近の市道の補修工事をお願いしたい。	市道補修工事については、議会として、危険箇所や著しく破損している箇所等を中心に執行部に早めの対応を要望しています。竹田高校体育館付近の市道補修工事について執行部に照会した結果、担当部署から次のとおり回答がありました。 「現在、国の交付金事業を活用し、市道の舗装補修工事を継続しております。今後も引き続き、老朽化し、交通の安全に支障をきたしている市道、また、地域交通に重要な路線など、優先度の高い順に計画的な舗装補修を進めてまいります」 議会として、今後も通行の安全に支障をきたさないよう、取り組んでまいります。
小学校の統廃合は。宮城台小学校の新生は1人と聞いているので、統合を考えては。	子ども達にとって、互いに学び合い、競い合う事は重要なことであります。一方、地域に学校がなくなれば、地域の活性化や地域のまとまりが薄れるように思います。このため、子育て支援住宅の建設や、今後、どのようにして子ども達を増やしていくかを考えることが大事だと思います。また、学校の統廃合については、地域の同意が必要と考えます。地域住民の意見を尊重したいと思います。
税金の滞納はあるのか。	全ての会計で滞納・未収金があり、担当課は夜間徴収等で滞納整理を行っています。現在、未収金を含めた滞納額は、8億7千万円です。

【会場アンケートから】

- ・市民の声をもっと大切にしてほしい。
- ・今日のような意見交換会を今後も続けてほしい。小地域にも出向いていただきたい。
- ・意見交換会が他の行事と重ならないよう、事前に横の連絡を取っていただきたい。また、交換会の時間は、たっぷり取っていただきたい。
- ・竹田市には大きな会社がない。市民は仕事がなくなるのが一番困るので、現在ある会社がなくならないよう議員の頭の中に入れておいてほしい。
- ・議員の報酬を日当制にしてはどうか。
- ・竹田の空き家を、シャッター通りにしないように考えてほしい。
- ・新規復旧工事等については、作業すれば良いのではなく、以前より利便性が改善されて、真の市民生活に活用されるよう検討されたい。

竹田南部(入田・宮砥・姫岳)地域

平成24年4月21日(土) 午後7時～ 参加人数 25人

参加議員



日小田秀之
(班 長)



和田 幸生



大塚 哲之



渡辺龍太郎



坂梨宏之進



井 英昭



徳永 信二



入田分館

意見・質問等	意見・質問等への対応(担当部署の回答がある場合は、「」で囲んでいます)
議員定数を18名にした根拠は。また類似団体との比較をしたということだが何処と比較したのか。次回改選の議員定数は18名となっているが、	もっと減らすべきだとの意見もありましたが、ただ定数を減らせば良いということにはならず、竹田市は地理的条件も広範囲でもあり、県下他市の現状も踏まえ最終的に18名が妥当との結論を得たところです。なお、昨年12月定例会ですでに条例改

いつから適用されるのか。新人が出馬しやすいうようにするためにも定数を多くしても良いのではないか。	正を行っており、来年の改選期から適用されることになります。(県下14市の議員定数の現状を併せて報告しました。)
市民の感覚と議会の感覚が少し乖離しているのではないか。竹田市の現状(衰退)を非常に心配している。各議員は公人として本日出席していると思うので、衰退の原因と活性化対策についてそれぞれ議員の考えを聞きたい。	本日は市民との初めての意見交換会であり、市政や議会に対する意見・要望等をお聞きすることを開催主旨としており、議員個人の意見(私見)は控えさせていただくことを申し合わせています。立会演説会ではないので、議員一人ひとりの考えを聞くことについては今回は是非ご容赦願いたい。こうしたご意見があったことは持ち帰って報告し、今後に生かしたいと思います。
市の事業で合併浄化槽を設置したが、毎月の検査料(市が徴収している使用料のことと思われる)が高い。2か月に1回の検査(徴収)で良いのではないか。	市が行っている浄化槽整備推進事業は毎年設置基数の目標を定めて推進しています。合併浄化槽は個人で設置しても維持費が同程度かかります。このことについては、契約にも謳っており、事前に説明をしていると思うのでご理解願います。
南部地区は公共のバスがなくなりミニバスが走っているが、登録・予約が必要で誰でも乗れるわけではなく不便である。豊後大野市の緒方では誰でも自由に乗れるということだが、竹田市でも過疎高齢化が進むなか、誰でも利用できるよう便利にできないものか。	竹田ミニバスの利便性改善については、これまでも利用者の切実な声を一般質問等を通じ要望してきた結果、付添者の同乗や古町停留所の新設等一部改善が図られた面もあることを報告しました。なお、許認可の問題が考えられたため執行部に照会した結果、担当部署から次のとおり回答がありました。「竹田ミニバスについては、九州運輸局への運行許可申請時に事前登録すること等を条件に許可を受けています。豊後大野市緒方町で運行しているコミュニティバスについては、登録・予約なしで誰でも利用でき、豊後大野市が所有する車両を運行会社は無償貸与する方式で運行しています。竹田市が運行するコミュニティバスについては登録・予約なしで誰でも利用できることは同じですが、運行会社の車両を使用して運行しており、使用車両が豊後大野市と異なりますのでご理解をお願いします」 議会としましても利便性の向上に努めてまいる所存です。
旧竹田市では、金婚式の祝いを市が主催するなどしていたが、合併後はそれもなくなった。どうも高齢者に対するサービスの低下が見受けられる気がしてならない。子育て支援住宅など若者を呼び込む施策も良いが、金婚式を迎えた方々に記念品(夫婦茶碗など)を贈るだけでもそんなに予算がかかるものではないと思うが、福祉施策として何とかならないものか。	この件は行財政改革の一環で、敬老祝い金を含めて合併後の行財政改革推進委員会(検討委員会)で検討され決まったと思いますが、当時市民代表も入った委員会で決まったということで、議会も尊重せざるを得なかった側面があります。ご要望については、担当部署の意見を徴しましたので以下に記載します。なお、議会としましても今後検討させていただきます。「合併後より公平な見地から、80歳、90歳、100歳の誕生日を祝い、記念品を差し上げています。また、平成21年度からは、敬老会へ一人当たりの助成を600円から800円に引き上げを行うなど、高齢者福祉施策の進展に向けた取組を行っています」
住民サービスの低下に関する事例として、以前は税金の申告は市の職員が分館等に出向いてくれていたが、最近では市役所(本庁)まで行かなければならない。高齢化が進むなか、車を持っていない人は大変だ。以前のように地区の分館等で申告ができないものか。	この件は以前一般質問でも取り上げたことがあります。その際の執行部の答弁では、理由として「電算システム上の問題と行財政改革での職員数の減員等もあり、従来のような職員配置はできかねる」ということでした。なお、参考までに3支所管内の市民も支所まで出向いており、隣の豊後大野市も同様だと聞いております。この件については持ち帰って実態を確認の上、後日回答する旨を約束していましたので、担当部署への照会結果を以下に記載します。「申告相談は平成18年までは各地区の公民館に出向いて実施していましたが、平成19年申告からは支所税務課の統廃合により全地区をカバーすることが困難となり、本庁及び3支所を会場として行なっています。市庁舎ですと基幹電算にアクセスできるので、資料照会が即座にでき時間も短縮され正確な申告相談を受けることができます。また、期間中ご都合のつかない納税者にはどの日でも受付できる体制や土曜日にも相談日を開設しています。一方個人情報保護についても、特にその取扱いに慎

重を期する必要がある、相談会場では配慮を充分いたしております。弱者を思いやる方策としては、年金収入のみの高齢者で相談会場に出向くことが困難な方には電話による相談も受付けています。TOP 懇談会でも意見をいただき、返信用封筒を全戸に配布し、郵便による申告受付も平成22年度から始めました。これからも弱者への配慮に努めてまいりますので、ご理解をお願いいたします」

【会場アンケートから】

- ・今後も続けてほしい。
- ・活発な議会討論を行ってほしい。
- ・市民の意見を十分に（小さな意見も）吸い上げてほしい。
- ・行政とともに少子高齢化、過疎化の早急な対応を。
- ・竹田市民の代表として公平審議を願う。
- ・南部地域の交通手段（コミュニティバス）の確保を。
- ・行政に対する要望が多いと思った。議員への質問のピントがはずれていると思う。
- ・改革とは議員定数だけではない。以前に比べて市民に対するサービスが低下している気がする。その辺りも協議してほしい。

竹田西部（玉来・松本・菅生）地域

平成24年 4月21日(土) 午後7時～ 参加人数 43人

参加議員



佐田 啓二
(班 長)



渡辺 克己



吉竹 悟



本田 忠



伊藤 孝信



足達 寛康



阿部 重幸



松本分館

意見・質問等	意見・質問等への対応(担当部署の回答がある場合は、「」で囲んでいます)
昨年の常任委員会の研修で不祥事があったが、そのことに対して議会として、市民への謝罪があってしかるべきではないか。また、この不祥事を議会は、どのように認識しているのか。	改めてお詫び申し上げます。この件については、昨年11月の臨時会及び、12月定例会において、さらには、ケーブルテレビ、『市議会だより』を通して議長が市民に対し謝罪し、信頼回復に向けた決意を述べました。 当事者については、テレビ局、新聞各社の報道を通じ、市民と関係各機関等に対し謝罪と深い反省の意を表明させていただきました。 議会としましては、議会全体の問題と捉え、2度とこのような過ちを繰り返さないために、議会基本条例を制定します。 その中に議員の姿勢について厳格に謳い込み、議員自らが襟を正し、自覚と責任をもって議会活動に取り組むことによって、信頼回復に努める覚悟であります。
市道君ケ園1号線は、現在測量も終わり、おそらく図面書きの段階だと思う。通学路で小中学生が通る。できるだけ早く改良工事が終わるようにお願いしたい。	市道君ケ園1号線は、出口が鋭角になってよく事故が起っています。市の建設課及び国土交通省竹田維持出張所にも要請に行きました。市建設課に進捗状況を照会したところ「平成23年度に測量及び路線計画を完了させ、これをもって今、国土交通省と協議・要請をしているところです」との回答でした。利用人口が多く、危険度が高いだけに、早期に改良工事が完了できるように働きかけてまいります。
介護保険について、今日(4月21日)の新聞では豊後大野市は6,250円で県内では一番高く、竹田市は5,500円と掲載されていた。全国平均は4,972円、大分県5,320円で竹田市はほぼ県平均に近い。一般会計からの繰入も大きい。心配なのは介護保険料がどんどん上がり、また、介護保険会計がパンクするのではないかということ。	介護保険特別会計の平成24年度予算は約36億9千万円、一般会計からの繰入額は約5億500万円、国民健康保険特別会計は約39億円、一般会計からの繰入額は約2億2千万円です。 平成23年9月に副市長をトップに『健康一直線』プロジェクトチームを編成し健康づくり・予防対策を強化してきましたが、高齢化率40.9%という状況の中で医療費は年々膨らんでいるのが現状です。介護保険のみならず国保会計も厳しい現状にあります。赤字が出たから税率を上げるということも厳しい状況にあります。

介護保険の今後の見通しと、対策をどう考えるか。	方法としては、更なる健康づくり・予防対策を徹底することで支出を抑えることが現実的ではありますが、もう一つ、市町村が保険者となっている制度から国が保険者となり全国津々浦々同じ保険料、制度とすれば全国で負担を分かち合うことができ制度は維持できると思います。
旧竹田市の街並みにこれ以上お金をかけて観光にメリットがあるのか。町中に石碑(案内板)が30くらいあると思うが、あれだけの石碑(案内板)を建てる必要があるのか。また、白壁の再生等も行っているが、もう少し生かされた税金の使い方をしてほしい。	街並み保存の関係は、城下町内での新築、改築について竹田市史跡等環境保存条例の保存基準にあわせた街並み保存に取り組んでいます。平成24年度は3,300万円の事業費でその内、国県補助金は約1,500万円です。 案内板は、城下町の景観に違和感を与えないために天然素材(木製、石製)を使って、観光客に竹田市の歴史や文化財を理解してもらうために設置しています。文化財課は、岡城と城下町を一体的に整備して、竹田らしい歴史観のあるまちづくりを進めていると理解しています。
岡城に関しては、岡城会館がなくなり食事をする所がない。観光に対して力の入れようが感じられない。登城手数料300円を取っているが、それがどのように生かされているのか。	今年2月に岡城会館が取り壊され、土産品も買えない、食事もしない状態になっています。このことは分かっていたから、平成23年度に東京大学教授や市内外の有識者からなる『岡城跡公開活用委員会』を立ち上げ、岡藩総役所跡を含んだ岡城全体の活用をどうするかという議論・研究をしています。岡城の整備・活用については、竹田地域の地域審議会の答申にも要望が出されています。検討課題は、ガイダンス施設の設置、登城手段、伐開・植栽等の景観形成の3点です。これらの課題を克服して、岡城の魅力を引き出し観光客を呼び戻したいと思います。 岡城入場料は多いときでは3,000万円を越してありましたが現在は、2,000万円程度に落ち込んでいます。この収入は、岡城の整備に充当しています。
白水ダムに4,700万円もかけてトイレや駐車場を作る必要があったのか。	観光地での評価ポイントは、観光資源そのものの評価は当然ですが、駐車場とトイレの善し悪しは大きなポイントです。白水ダムは国指定の文化財であり、竹田市の魅力的な観光施設でもあるので、それに相応しい施設は必要だと思います。また、観光客を呼び込むためには、観光資源を、岡城を中心に点から線に、線から面に広げていくことが大事であり、この白水ダムは岡城とともに竹田観光の周遊コースの一つとして売り出しているところです。そして、財源は国の交付金を活用しての建設でしたから認めました。 なお、建設費及び財源内訳は、次のとおりです。 駐車場建設費＝28,725,900円 内訳＝国費10,722,600円、市費18,003,300円 トイレ＝20,077,500円 内訳＝国費17,600,000円、市費2,477,500円
議員の視察や研修の成果はどのような形で市政に反映されているのか。	議員の視察研修は、報告書の提出が義務付けられています。参考になったものについては、担当課に伝達したり、一般質問の時に紹介したりして、政策に活かすよう努めています。
災害発生時の対応について、警報が出ていることを市民にいち早く知らせしてほしい。	警報が出された場合は、従来からの屋外拡声器(防災無線)とIP告知放送で迅速に周知するようにしています。このことについて執行部に照会したところ「警報については、総務課対応で屋外拡声器、告知端末機を通じ放送をしています。ケーブルテレビにおいては、ゲスト(消防本部・市総務課)による災害予防対策を市民チャンネル(データー放送を含む)で取り上げながら、市民の皆様に、より一層の防災意識を高めていただくよう告知してまいります」との回答がありました。 ※7月12日の災害では、IP告知放送やケーブルテレビが寸断され機能しない状況が一部地域で発生しました。この対策について、今後検討してまいります。

『市議会だより』の中に横文字が多い。あっても良いが、その場合は、注釈をいれてほしい。	私たちを取り巻く環境は、グローバル(地球規模)になっています。ある程度は横文字も使わないと説明がつかない場合もありますし、その横文字自体が一つの言葉として世間で使われている場合もあります。ある程度は、横文字に慣れることも必要かと思います。ご指摘のとおり、市議会だよりのみならず、市の関係文書については、必要と思われるものについては注釈を入れるように執行部に要請します。
岡城周辺は竹田高校の学校林が多いが、学校林を買い取って岡城の公有化を進めてほしい。そして、伐採をして石垣を出してほしい。	史跡岡城跡の指定面積は50万㎡あります。この内約16万㎡を公有化しています。5～6年前、竹田高校の学校林を2,000万円で買収した経過があります。公有化について文化財課は、今後も引き続き進めるとしています。 議会としても、360度石垣が見えるようにしていきたいと思っています。
岡城の登城手段として、つり橋やロープウェイ等はどうか。	文化財課の意見は次のとおりです。「エレベーター構想については、文化庁・県文化課から文化財保護の観点から厳しい意見が述べられています。つり橋やロープウェイ等については、エレベーター以上に史跡環境に影響を与えることから現状では難しいと考えます。登城手段の改善はこれからの岡城跡には必要不可欠と考えていますから、改善に向け方法論、課題、国等の支援を含め関係機関と協議を進めていきます」 議会としては、当面の方法として、シャトルバスの運行の提案をした経過があります。登城手段の改善については、議会としても真摯に取り組んでまいります。

【会場アンケートから】

- ・市庁舎にふさわしい市議団。市庁舎にふさわしい竹田の町、生き生きした玉来のまちづくりを。
- ・透明性のある議会運営を望む。
- ・執行部に対する積極的な提言やチェック機能を十分に果たしてほしい。
- ・「シャッター閉、カーテン閉」の竹田市では淋しい。
- ・住宅が1棟で他と離れている市民にとっては、水道事業は差別のある特別会計だ。
- ・防災マップを受領した時、「過去この場所に山がくずれた記載がされていないのは何故か」と問うと「これは県が作成したので分からない」とのことだったが、これをどう思うか。
- ・竹田市の活性化と高齢化率40%以上になる中での高齢者に優しいまちづくりに期待している。
- ・議員定数についてはどう考えているのか。また、調査費や数々の費用について、支給は月の報酬で十分ではないのか。(交通費なども含む)
- ・議員報酬について考えていただきたい。企業をつくらせていただきたい。
- ・西部地域の意見交換会は1日で終わるのではなく、玉来地区でも行っていただきたい。
- ・時間が短いので、多くの質問が出ないのでは。もう少し時間がほしい。
- ・岡城観光について。岡城を見学し、素晴らしい景観に心躍らせ帰路に着く途中、心配り、気配りのできないある店の方の言動で、二度と訪ねたくない気分になったとの話があり、大変残念。何か良い方法はないものか。
- ・市当局への要望と議会のそれとが混合されているような気がする。税金を使わず、何もしないでじっとしていれば竹田が栄えるということは絶対にはないと思う。
- ・10年後の竹田市の農政全般についてどのようなビジョンを持っているのか、政策提言をしてほしい。
- ・私どもの地区(菅生)には、市議の方はどなたも来られないが、それで地域の抱えている諸課題を市政に反映できるのだろうか。
- ・議会に会派など必要だろうか。
- ・市政の正しいチェック機能を。
- ・職員俸給の是正を。
- ・議員定数の減の実現を。
- ・議会への出欠に関係なく一律の報酬とはいかがなものか。税収も減少しているので、日当にしてはどうか。

竹田北部(城原・宮城)地域

平成24年4月25日(水) 午後7時～ 参加人数 21人
参加議員



森 哲秀
(班 長)



阿部 雅彦



岩屋 千利



中村 憲史



後藤 憲幸



和田 幸生



文化財管理センター(双城中学校跡)

意見・質問等	意見・質問等への対応(担当部署の回答がある場合は、「」で囲んでいます)
市の人口が1年間に約500名ずつ減少しているなかで、議員定数は今のままで良いのか。次回の選挙から定数が18となるが、その根拠は何か。議員数はある程度確保する必要がある。議員報酬を下げてはどうか。また、市民の声を議会に反映できるような議会運営を望みたい。そのためにも議会基本条例づくりに力を入れてほしい。	議員定数の決定に当たって、面積が広い竹田市においては人口比の要素に限らずに、地域ごとの市民の声が反映できるように、また、議会運営に支障をきたさないようにすることも考慮しなければなりません。次回の選挙から適用される18という議員定数は、自治会連合会等、市民の声を参考にして、議会改革調査特別委員会において検討を重ね、総合的な観点から決定したものです。議会基本条例については、今年12月の策定を目途に作業中です。
兼業農家などの小規模農家の育成策を提案してほしい。また、市外からの新規就農者に対する就農支援と、定住していくための支援策も併せて、関係各課で連携を取ってほしい。	畜産業や農業だけで生活していくことは、大変厳しくなっています。市としては更に農業政策に力を入れるとともに、地域の情報をもっと発信していくべきと考えます。このことについて、執行部に照会した結果、担当部署から次のとおり回答がありました。 「JAの共販出荷等を行っていない兼業農家や小規模農家の育成については、竹田市アンテナショップの直販事業等の推進を行っているところです。直販事業としては、大規模農家では手が回らない少量多品目の生産に努めており、市の平成24年度の当初予算において小規模・多品目栽培施設(パイプハウス等)整備に対する助成を予算化しております。また、本市の環境に適した品目や品種の検討も進めているところです。新規就農者への支援については、『新規就農者支援セミナー』などに積極的に参加してもらうとともに、4月から荻地域にあるトレーニングファーム『とまと学校』での研修を開始しております。定住支援については、市の農村回帰推進室や農業委員会・県関係者などと連携し、情報提供に努め、移住の支援を行ってまいります」 議会として、農業への一層の支援に努力してまいります。
森林の保全・活用については、生産森林組合やその他の地域への国や県の補助金制度も含め、事業の見直しをしてほしい。	議会に持ち帰って、全体場で話し合いを持ち、検討したいと考えます。なお、このことについて執行部に照会した結果、担当部署から次のとおり回答がありました。 「国は平成22年12月に『森林・林業再生プラン』を発表し、今までのような個々に森林施業を実施してきた林業経営では、強い林業の再生、山元への利益の還元、木材の安定供給が望めず、山林経営が衰退の方向に向かっていく現状を打破するために、大規模林業所有者(経営面積100ヘクタール以上)を中心とした提案型集約化施業の実施の方向性を明らかにしました。計画的な森林施業の定着、集約化と路網整備の進展による低コスト作業システムの確立、持続的な森林経営の確立を目指し、10年後には国内の木材自給率50%以上の達成を目指す計画で、新たに市町村森林整備計画や森林経営計画の策定を行うとともに、今回計画された森林施業計画に基づき補助金を交付する方式へ、制度の大幅な改正が行われました。間伐に係る公共造林事業では、補助金の算出基礎を施業面積と搬出間伐量とする方式へと変更されました。竹田直入森林組合では、7月に森林経営計画を

	策定し、下刈り作業の計画から新たな補助制度での補助金交付を受ける予定です」 議会として、一層の推進に努力してまいります。
地域住民の高齢化や戸数の減少、施設の老朽化が進む集落での水道管理組合事業について、市としての今後の支援等の対策を考えてほしい。	地区ごとで水道管理組合の運営がしっかりとできるように、市の支援が急がれるところです。このことについて執行部に照会した結果、担当部署から次のとおり回答がありました。 「飲料水の確保は市民生活に欠かせないものであることを考慮すれば、市として水道事業経営とは切り離れたなかで支援策を検討する必要があると考えます」 議会として、竹田市の水道ビジョンの中に盛り込むよう働きかけてまいります。
市の予算の使い方について、地域ごとのバランスも考慮した配分や執行をしてほしい。	予算配分等については、各地域や施設に対するバランス等も配慮したものと思っております。予算については、時として選択と集中という考え方も必要ですが、基本的に公平・公正な予算配分がなされるよう慎重審議に努めてまいります。
イノシシなどの有害鳥獣の駆除をどうしていくのか。補助金を含めて、見直しをしてほしい。	有害鳥獣については、いろいろな手段を講じて捕獲駆除に努めているところですが、個体数の増加に駆除が追いつかないのが現状です。このことについて執行部に照会した結果、担当部署から次のとおり回答がありました。 「毎年、ワナによる捕獲頭数が急増しており、全体としてはワナ設置の効果はあがってきています。箱ワナの配分は猟友会と協議しながら、被害の状況に応じて行っていますが、今後とも捕獲班の皆様には積極的な活用をお願いします。補助金については、現状でご理解をお願いします」 有害鳥獣の被害は全国的な問題です。議会としても、最新情報の交換を行いながら、有害鳥獣対策に取り組んでいきたいと考えています。
城原地区に防災・緊急用ヘリポート基地を設置してほしい。	このことについて執行部に照会した結果、担当部署から次のとおり回答がありました。 「現在、防災ヘリの場外着陸場については、竹田、荻、久住、直入の四地域全てにあり、竹田市管内には13箇所が登録されています。その内、ドクターヘリが利用可能な離着陸場は、8箇所となっています。9月からのドクターヘリの運行に伴い、新たに12箇所を離着陸場として申請していますが、城原地区においては離着陸場としての条件を満たしている竹田市文化財センター(双城中学校跡)を候補地として申請しています。消防本部としては、今後も防災ヘリ及びドクターヘリを積極的に活用して、市内における救急医療体制の強化を図ってまいります」 議会として、積極的に体制づくりに努めてまいります。
市内どこに住んでも、安心して暮らすために救急医療体制のさらなる充実を切に望む。	このことについて執行部に照会した結果、担当部署から次のとおり回答がありました。 「消防本部の救急救命士有資格者は現在16人で、再教育研修や症例検討会を重ね、常にスムーズな活動ができるよう努めています。今後も、出動要請に対して機敏な行動に努めつつ、病態の把握を短時間で、関係医療機関との連携を保ち、市民の安心・安全のために邁進してまいります」 議会として、市内どこに住んでも安心して暮らせる救急医療体制づくりに努めてまいります。

【会場アンケートから】

- ・こんな機会を持っていただき感謝している。できれば、少人数で雑談的な会話ができるような機会があると有り難い。是非、今後とも続けていってほしい。
- ・農業中心でも十分な生活ができるように力を尽くしてくれれば、後継者も育ってくれると思う。
- ・県内、特に竹田市の人口は激減している。竹田市に人口が増える政策を期待する。
- ・会社運営をしている。地元を優先してほしい。
- ・今後も市民の生活が少しでもよくなるよう、議員の方々には頑張っていただきたい。

荻地域

平成24年4月28日(土) 午後7時～ 参加人数 16人

参加議員

日小田秀之
(班 長)

和田 幸生



大塚 哲之



渡辺龍太郎



井 英昭



徳永 信二



荻公民館

意見・質問等	意見・質問等への対応(担当部署の回答がある場合は、「」で囲んでいます)
委員会研修の問題に関し、自治会連合会が以前議会に対し網紀粛清等いくつかの申し入れを行ったが、議会としてどのように対応したのか。ケーブルテレビを見てない市民もあり、説明があって然るべきだ。	改めてお詫び申し上げます。経過としましては、昨年11月の臨時会で議長が代表して市民へ向けて謝罪するとともに、12月定例会でも本会議冒頭に全議員が起立する中、議長が改めて謝罪いたしました。また、ケーブルテレビを通じ市民にお詫びするとともに『市議会だより』にも謝罪文を掲載しました。議会としましては、2度と同じ過ちを繰り返さぬよう議員全員が襟を正し、議会改革に本腰に取り組むことを改めて確認したところです。
議会の一般質問をケーブルテレビで見ていると、似たような質問が多い。議会運営委員会で検討し、何とか改善できないものか。60分の持ち時間にかかわる必要はないのではないか。余り評判が良くない。	それぞれの議員の見方や立場があり、議会運営委員会で一概に整理はできないのが現状です。ただ、会派内では調整をしています。一般質問の通告は議長宛に提出することになっていきますので、完全に重複している場合は議長が調整することも時としてありますが、質問は議員固有の権利でありなかなか難しいのが実情です。議会改革にも関連しますので、持ち帰って今後十分に検討したいと思います。
折角の『市民との意見交換会』なのに、参加者が少ない。荻地域は今が一番忙しい時期であり、4月はいろいろな行事が多いので開催時期をもう少し考えてほしい。	ご指摘については、反省点として持ち帰ります。他の市議会を視察研修する中で、このような市民との意見交換会を、先ずは実施することが大切ということで意見一致し、今回初めての試みで開催に至りました。議会側から市民の皆さんにできるだけ新しい情報を早く報告したいとの考えもあり、当初予算審議が終わった後の4月開催となった次第です。
平成21年の選挙直後から『市民との意見交換会』を開催することを計画していたのか。	以前の任意の委員会でも『市民との意見交換会』を開催すべきとの意見はありましたが、定数削減の議論が優先されました。これまでも自治会長会や婦人団体、会議所、農協等の代表者との懇談会を開催したことはあります。今回の『市民との意見交換会』の開催は、議会改革調査特別委員会が設置された後の議論で決まりました。 執行部が行う『TOP懇談会』と今回議会が主催した『市民との意見交換会』の違いも併せて説明し理解を求めました。
合併後は議会が遠くなった感じがする。荻町の時は議会の内容が伝わってきていた。今回もう少し具体的な(例えば事業内容なども)説明が欲しかった。内容的なものが全然伝わって来ない。	今回は初めての『市民との意見交換会』であり、説明時間を制約し出来るだけ意見交換の時間を長く取ることを重視しました。次の段階からはプリントを配布するなどの形で対応(工夫)したいと思います。

【会場アンケートから】

- ・市民の代表として、市政に対する監視のみでなく、市職員の日線に立つことも重要視した活動や姿勢を望む。特に若い職員との交流ももってほしい。
- ・議会議員としてのマニュアルは議員自身が自覚していると思っていたが、今日は議員としての実績報告を期待していたので残念。市民の参加が少ないということは、何が原因なのか。4月は年度はじめでもあり、市民(荻は農業が中心)が一番忙しい農繁期に開催するというのも原因の一つではないだろうか。今後の活躍に期待する。
- ・出席(参加)した市民が少なかったのは残念。周知が足りなかったのか、開催時刻が早かったのかと思われる。しかしながら、これまでなかったこの取組は意義あるものと考え、今後も継続してほしい。
- ・開催時期の検討。老人会、商工会等に直接呼びかけてはどうか。若い人が参加していないので、再度お願いしたい。
- ・出席者が少なかったことを考えると各種団体の代表や自治会長さん宛てに要請してはどうだろうか。これから折をみて開催してほしい。

久住地域

平成24年4月28日(土) 午後7時～ 参加人数 12人

参加議員

佐田 啓二
(班 長)

渡辺 克己



吉竹 悟



本田 忠



伊藤 孝信



足達 寛康



阿部 重幸



久住公民館

意見・質問等	意見・質問等への対応(担当部署の回答がある場合は、「」で囲んでいます)
『市民との意見交換会』の出席について、時期の問題と周知方法の問題がある。他の地域ではどうであったか。	連休後になると忙しくなるので、4月21日、25日、28日の連休前に設定しましたが、地域によっては農作業が始まり、参加しにくいという状況がありました。 次回から地域の状況に対応した時期を検討します。周知方法については、ケーブルテレビや告知放送、各世帯への配布文書等で周知を図りましたが不十分な結果となりました。 今後は、自治会長を通して周知徹底を図るなど、検討します。 地域ごとの参加人数＝竹田東部8人、西部43人、南部25人、北部21人、荻16人、久住12人、直入14人 合計139人
竹田地域では13の地区社協がある。それに習って久住、都野、白丹の3地区で、地区社協がスタートするようだが、市役所の退職者が事務局長になるように聞いている。どうか。	たまたま、市役所の退職者が事務局長になることはあるとしても、市役所の退職者を事務局長にすえるという話は聞いていません。
公民館(分館、地区館)には、経費節減のために市の職員を置かないで、民間に運営をさせるというような話を聞いたがどうか。	生涯学習課の回答は次のとおりです。 「分館・地区館には嘱託職員を配置して地域コミュニティの取組を行なっています。荻・久住・直入公民館は、支所のあり方検討委員会の方向性を受けて、公民館の再生に向けて教育委員会で検討をしています」 つまり、・・・荻、久住、直入の公民館長の身分等について検討しています。議会としては、いずれにしても、地域コミュニティの確保に努めます。
会派に分かれる必要があるのか。	平成17年に合併して、2年間は会派がありませんでした。議論をする中で、政策を中心とした理念を共有した者で会派を作ることになりました。 メリットとしては、会派での勉強会で議題について、突っ込んだ研究ができます。 また、会派ごとの意見集約をした上で、代表者会議で検討することで課題や、研究テーマの整理ができ、政策に反映できます。
議会の夜間、休日の開催は、どのような討論経過があったのか。	平成19年7月に設置した『議会活性化・改革委員会』では、『議会の夜間、休日の開催』ができないかという議論をしましたが、『議会の夜間、休日の開催』は、全職員が出席、又は待機しなければならないことから現実的には困難という結論に達したため、平成21年6月に設置した『議会改革調査特別委員会』の検討課題には上げませんでした。
議会活性化・改革委員会の検討課題の中の『傍聴規則の今日化』とはどんなことか。	傍聴規則が厳格であるので現代の時勢に合ったように、緩やかに見直すことを検討課題としましたが、議会は真正な場であることから、厳格な傍聴規定は必要という結論に達し、現行のままとすることに決定しましたので、『議会改革調査特別委員会』の検討課題には上げませんでした。
竹田市はいろんなイベントをやりながら、老若男女がにぎやかに楽しく活動している状況がケーブルテレ	福祉事務所は、この件について次のような対策を講じています。 「孤独死防止や高齢者の見守り対策として、民生児童委員による一人暮らし高齢者宅への定期的な訪問活動をしています。ま

びに映し出されているが、その狭間で孤独死、虐待等が起こらないように議会の政治課題として取り組んでほしい。	た、社会福祉協議会では、高齢者等の見守り活動を地域ぐるみで行う小地域ネットワーク活動の取組を進めています。 システムとして、緊急通報装置の設置を行なっています。虐待防止については、児童相談所、警察署と連携して対応することとなっています」 議会としては、これらのシステムが十分に機能するよう注視をしてまいります。
竹田市は催しもの(歴史関係)が多い、この予算はどうなっているのか。	議会としては、市主催のイベントについて、回数や金額について、その費用対効果はどのようなものかという議論をしてきた経過があります。多すぎるのではないかとということも申し上げてきましたが、徐々にその成果が出てきていることも事実です。大事なことは、行政遂行のうえで各課の本来の所管業務に支障が生じないようにしなければならないことです。議会として監視をしてまいります。 企画情報課のまとめでは、平成23年度のフォーラムやシンポジウム等の開催は計7回で開催費用は約620万円となっています。
竹田市街地には、駐車場が少ない、浮羽市、吉井町はあちこちに駐車場がある。対策を講じてほしい。	町中の公的駐車場については、『ふれあい駐車場』『駅前駐車場』『歴史資料館駐車場』があります。どんなまちづくりにするのが焦点だと思います。総合的なまちづくり計画の中で駐車場をどう配置するのか、中心市街地活性化基本計画が策定されますので、総合的なまちづくりの中で駐車場の位置づけについてもしっかりと検討するように要望します。
ケーブルテレビで一般質問を夜も放送してほしい。	担当課から「一般質問当日は、生中継で放送しています。一般質問の再放送については、1週間後の月曜日から金曜日までの午後8時と午後9時から1人ずつ放送しています。再放送は、市民チャンネルの番組編成を変更して実施していますので1回のみとしています」という回答がありました。 議会としては、当分の間は、この体制でよいのではと判断しています。市民の要望等を把握する中で必要に応じて対応したいと思います。
昨年も陳情書を提出したが、地区館単位で行政の事業として、パソコン教室を開催してほしい。また、久住教室は、無線LANの電波が届かないので、改善してほしい。	担当課と協議した結果、分館単位で希望があればパソコン教室を分館事業として行うことになりました。また、機器の使用に際して不具合が生じる所はないか調査しましたが、支障があるのは久住分館のみでした。久住分館の無線LANの障害については9月以降に改善することとなりました。
有害鳥獣対策につて ①市、共済、農協たらいまわしになっていないか。 ②対策協議会に農家代表を入れてほしい。 ③箱ワナは、実績を調査して、実績の上がっていないものは返してもらい、実績のあるところに回してほしい。 ④猟友会に対しては、捕獲代金を上げてほしい。	担当課の回答です 「①有害鳥獣対策の電気柵、ネット等の助成には、市及び大分県南部共済組合が別々に行っているのをそのように思われたのではないかと思います。 ②県が組織している豊肥地区鳥獣被害現地対策本部の中に農家代表も参加して、集落全体での対策を検討・実施しているところです。 ③ワナによる捕獲頭数は、毎年急増しており、ワナ設置の効果は上がっています。箱ワナの配分は、猟友会と協議しながら被害の状況に応じて行ってきましたが、今後とも、捕獲班の皆様には積極的な活用をお願いします。 ④竹田市では、イノシシ捕獲に対する上乗せ助成制度や平成23年度からは狩猟期間中におけるシカ捕獲報奨金の導入を図って、県下に先駆けて実施しておりますので、捕獲報奨金については、現状でご理解願います」 議会としては、担当課の考えと農業者の意識にずれがないか、調査検討し、ずれがあれば調整に努めたいと思います。

【会場アンケートから】

- ・講演会が多いが、内容が専門的過ぎる。もっと誰もが行きたくなる講演会にしてほしい。

直入地域

平成24年4月28日(土) 午後7時～ 参加人数 14人

参加議員

森 哲秀
(班 長)

阿部 雅彦



岩屋 千利



中村 憲史



後藤 憲幸



坂梨宏之進



直入支所大会議室

意見・質問等	意見・質問等への対応(担当部署の回答がある場合は、「」で囲んでいます)
今年の3月にUターンで帰って来て以来、国が行っているいろいろなパッケージ事業、まちづくり工房に参加した。パッケージ事業等に、議会はどのように絡んでいくのか。どのような認識をしているのか。また、どのような形で具体化していくのか。	市と議会には、執行機関と議決機関という機能の違いがあり、通常、議会が市の行う各種事業のすべてに、初期の段階からタッチしていくシステムにはなっていません。議会は、予算や決算の審議等を通じて市政をチェックし、民意を反映させることになります。
農村回帰宣言を標榜しているが、郷里に帰ってきて医療、安全、金融機関などが揃わないと、都市に住んでいた者は不安を覚える。スローガンだけではなく、安心して楽しく暮らせる細かい配慮を望む。特に、住宅に農地が付いているので農業委員会が絡み、苦勞する。	新規就農者等が安心して各事業に取り組めるよう、万全を期す必要があります。農地等の取り扱いについては農業委員会の所管事項ですが、議会としても、予算・決算の審議等を通じて、民意の反映に努力してまいります。特にいろいろなトラブルを防ぐことから、事前に竹田市の現状や制度等を十分に認識していただく事も大切と考えます。
直入地域の住民は、直入荘の存続を望んでいる。議員の応援を頂き直入荘の存続、リニューアルをお願いしたい。	直入荘あり方検討委員会、直入地域審議会等における直入地域の住民の皆様の、存続を希望するという民意は、大事にしなければならぬと思っています。
合併時に、合併すれば地域がよくなるんだと聞いた。今、合併してよかったということは無いのに等しい。合併して直入地域の何がよくなったのか。	国や県の支援のもと、各種審議を経て合併を選択した経緯があります。合併後、約7年が経過した今、いろいろな問題が生じているのも事実ですが、前向きに捉えて合併特例債等を有効活用しながら、竹田市の活性化に向けた努力をしなければならぬと思っています。
竹田市は障がい者に対して無関心な人が多い。特に行政とか議員に多いのではないかと。もし、関心のある議員がいれば、どういうふうなことをしてきたのか。	障がい者福祉を進めることは、障がい者だけでなく、竹田市全体が住みやすく豊かになる施策であると考えています。障がい者雇用対策等につきましては、行政だけでなく、民間企業、商店街等とも緊密な連携を図っておりますし、福祉大会等にも積極的に参加をしています。
議員定数を減らすことは世の流れかもしれないが、市民の声を聴くためにあるのだから、議員の数は多くした方がいいと思う。	議員定数の削減は全国的な流れかもしれませんが、議員定数の決定に当たっては、県下他市の状況、竹田市の面積等も勘案しながら、市民の声にも耳を傾け、議会改革調査特別委員会において、総合的な観点から決定したものです。
議員報酬は3%を減額しているが、市職員、三役も減額をしている。市民感情として、3%の減額は少ないのではないと思う。また、他市と比較しても報酬が多いのではないかと。	議員報酬以外にも、政務調査費、視察研修費を減額しています。議員報酬は議員活動を保障するため、3%の減額といたしました。竹田市の議員報酬は、県下14市の中では中位以下で推移しています。

【会場アンケートから】

- ・住民の働く場所（地域に根づいた事業）をつくるべきである。
- ・開かれた議会を。

「玉来ダム早期完成を求める意見書」可決

議員提案による意見書を関係機関に提出しました。

▶意見書案を読み上げる提出者
日小田 秀之議員



臨時会では、議員提案による意見書案1件を全会一致で可決しました。

◀豪雨による被害について
お見舞いを述べる加藤議長



8月16日(木)第1回臨時会が開催されました。
今回は、専決処分を行なった報告3件、一般会計補正予算(第3号)ほか議案5件、意見書案1件について審議を行い、それぞれ下記のとおり決定しました。

一般会計補正予算(第3号)などを可決

平成24年第1回臨時会 結果報告

平成24年 第1回臨時会(平成24年8月16日)

議案等の議決結果

報告第5号	専決処分事項「平成24年度竹田市一般会計補正予算(第2号)」について	承認
報告第6号	専決処分事項「平成24年度竹田市立こども診療所特別会計補正予算(第2号)」について	承認
報告第7号	専決処分事項「平成24年度竹田市浄化槽整備推進事業特別会計補正予算(第2号)」について	承認
議案第78号	平成24年度竹田市一般会計補正予算(第3号)について	可決
議案第79号	平成24年度竹田市簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)について	可決
議案第80号	平成24年度竹田市農業集落排水事業特別会計補正予算(第2号)について	可決
議案第81号	平成24年度竹田市浄化槽整備推進事業特別会計補正予算(第3号)」について	可決
議案第82号	平成24年度竹田市水道事業会計補正予算(第2号)について	可決
意見書案第4号	玉来ダム早期完成を求める意見書	可決

あとがき

あの悪夢のような豪雨災害からやがて2か月がたとうとしている。犠牲になられた方々のご遺族や被災された多くの皆様には何と言って慰めの言葉をかけたら良いのか、その言葉さえ見つからない。ただただ犠牲者のご冥福と被災された御家族の惨禍からの一日も早い立ち直りを心底から願うのみである。

被災地の片付けで災害ボランティアの青年と一緒にあった。彼はその日が6日目だという。連日大分市からバイクで通って来ていたのもびっくりした。今年訓練校を卒業して就職口を探していたが、「少しでも役に立てればとボランティアに参加しました」と屈託のない笑顔が印象的だった。その後仕事はうまく見つかつただろうか。災害ボランティアの皆さん、私たちは、泥まみれになった皆さんの素敵な笑顔を決して忘れません。

日小田 秀之

市議会だより編集委員会

委員長
副委員長
委員

「 「 「 「 「
(議長) (副議長)

加藤 正
和田 幸
吉田 哲
森田 秀
日小田 啓
佐部 雅
阿部 千
岩屋 彦
利